

# ひつじ書房 1990 年、創業。 2010 年ひつじ書房は 20 周年を迎えました。

2010 年、ひつじ書房が創業して、20 周年を迎えました。1990 年という年は、日本経済はバブルの末期、世界的には東西の冷戦構造の崩壊、それに引き続いた資本主義・市場主義の勝利の謳歌がはじまった年でした。1987 年には、日本語教育能力検定試験が実施され、日本語教育とも連動して日本語学の勃興がはじまった中でした。激動の時代のはじまり、日本語学の成長の中でひつじ書房はスタートしました。それから 20 年。ひつじ書房で刊行しました研究書が新村出賞を 4 年連続で受賞するなど、言語学の分野で評価を得ることができました。これからの次の 20 年間は、これまでに進めてきたことばの研究書を着実に刊行していくとともに、文系理系の枠を超えて言語の研究に貢献をしたいと考えています。詳細につきましては、小社の HP やパンフレットなどでお知らせしてまいります。どうぞご期待下さい。

### Hituzi Linguistics in English No.14

#### Features and Roles of Filled Pauses in Speech Communication

A corpus-based study of spontaneous speech

渡辺美知子著 定価 11,000 円 + 税

#### ひつじ研究叢書(言語編) 第 57 巻

#### 日本語会話における言語・非言語表現の動的構造に関する研究

坊農真弓著 定価 7,200 円 + 税

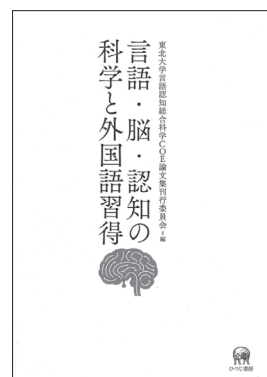
#### ひつじ研究叢書(言語編) 第 69 巻

#### 日本語における聞き手の話者移行適格場の認知メカニズム

榎本美香著 定価 6,800 円 + 税

#### 言語・脳・認知の科学と外国語習得

東北大学言語認知総合科学 COE 論文集刊行委員会編 定価 4,600 円 + 税



### シリーズ 文と発話 全 3 巻 各定価 3,200 円 + 税

串田秀也・定延利之・伝康晴編

「単語」「文」とは一体なにか？ 言語研究の中であたりまえのものとして前提となっていたものを、根本から捉えなおすシリーズ。

#### 第 1 巻 活動としての文と発話

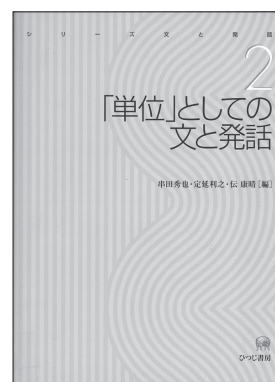
文は話し手の意図を伝達する道具であるという前提を疑い、伝達という活動にとっての文や発話の構造がいかなる働きをするのかを考察した論文を収録。

#### 第 2 巻 「単位」としての文と発話

完結性を持った単位として扱われる従来の文概念に再検討を加え、文に代わるどのような単位を設定することができるのかを考察した論文を収録。

#### 第 3 巻 時間の中の文と発話

表現される過程そのものに焦点をあてる。文を一音一音、一語一語開示されていく「進行性」を持つものとして考察した論文を収録。



■ひつじ書房の刊行案内や特別セールなどのお知らせは「ひつじメール通信」から配信いたしております。ご希望の方は [toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp) までメールでご連絡ください。

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F TEL 03-5319-4916 FAX 03-5319-4917  
[toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp) <http://www.hituzi.co.jp>